# 平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐山高等学校 | 学校番号 | 4

## Ⅰ　自己評価

**アンダーラインは平成２９年度学校経営計画（高等学校版マニフェスト）に提示したものです。**

| | |
|---|---|
| 学校教育目標 | 教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人間を育成するために、次の教育目標を定めてその実践を期する。<br>（１）「躍進岐山」の意気と誇りをもて<br>（２）全力を尽くして学業に励め<br>（３）礼儀正しく思いやりのある人となれ<br>（４）強固な心身をつくれ |

### （１）教育課程、学習指導、生徒指導

| | |
|---|---|
| １　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | 【教育課程・学習指導】<br>・予復習や宿題の不徹底等、学習の消化不良と定着不足。<br>・自ら発展・応用的な学習に取り組む姿勢が弱い。<br>・「現在の学習量が不足している」と考えている生徒が７割いる。<br>【生徒指導】<br>・「人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」「社会のルールにふさわしい服装・頭髪等の指導を行っている」の生徒項目では、4.4と4.5で改善されてきている。<br>・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」「教育相談係が個々の生徒に対して適切な指導を行っている」の保護者項目では、4.2と一定の評価はされているが、分からないと回答する割合が２割近くあり保護者に対して情報発信の工夫が必要である。 |
| ２　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | 【教育課程・学習指導】<br>◇「やり切る」指導の徹底と「使えるまで高める」教科指導による学力の伸長を目指します。<br>◇探究型教育システムを通して、科学の視点と言語活動を重視した授業を展開します。<br>◇中学生、保護者への広報活動を充実します。<br>【生徒指導】<br>◇全職員の共通理解に基づき、生徒一人一人を正しく理解し基本的生活態度を育成します。<br>◇支援を必要とする生徒に対して早期発見、早期対応に努め組織的な対応します。 |
| ３　重点目標を達成するための校内における組織体制 | 【教育課程・学習指導】<br>・教務部及び学年会、教科会<br>・理数・探究部、進路指導部<br>【生徒指導】<br>・学年会や他分掌との情報共有と連携指導<br>・カウンセラーや外部機関との協力体制 |

| ４　目標の達成に必要な具体的な取組 | ５　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| 【教育課程・学習指導】<br>(1)「やり切る」指導を徹底することでよりよい学習習慣の確立と基礎学力の定着を目指すとともに、学習の到達度に応じた指導を組織的に行います。<br>(2)「使える」まで高める教科指導を通して、応用力・実践力を育成し、学力の伸長を目指します。<br>(3)科学の視点と言語活動を重視した授業を展開するため、授業研究や教材開発を行います。<br>(4)中学校の生徒や保護者に対して本校の特徴や取組をわかりやすく伝えます。 | 【教育課程・学習指導】<br>(1)予習や課題、朝テストの事後指導の実施状況により判断する。提出状況や事後指導は100％を目指す。<br>(2)生徒による授業評価並びに、家庭学習時間の調査により評価する。授業に対するアンケートでは５段階評価で4.0以上を目指す。<br>(3)全教科で年２回は研究授業と研究会を実施し、研究実践の蓄積を行う。<br>(4) 中学生やＰＴＡの学校見学会等でのアンケート結果により判断する。 |

| | |
|---|---|
| 【生徒指導】<br>(1)週初めに実施する身だしなみ指導を始めとして遅刻指導、情報モラル指導、交通指導等も含め、全職員の理解のもと生活規律を整えます。<br>(2)予防的・開発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動を支援します。<br>(3)生徒理解連絡会、ケース会議、学校いじめ防止対策委員会、専門家を交えた校内研修等で支援を必要としている生徒に対して、職員の共通理解と支援方針を検討します。<br>(4)支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援コーディネータや関係機関と連携して校内支援体制の充実を図り、組織的に対応します。 | 【生徒指導】<br>(1)生徒の身だしなみを始め、生活規律が整ったか。<br>(2)生徒・保護者に対して啓発活動が活発になされたか。<br>(3)支援を必要とする生徒に軸足を置いた対応ができたか。<br>(4)生徒理解のための情報連携がなされ未然防止、早期対応がなされたか。 |

| 6　取組状況・実践内容等 | 7　評価視点 | 8　評価 |
|---|---|---|
| 【教育課程・学習指導】<br>・各教科、学年会で「やり切ることの徹底と使えるまで高める学習による学力の伸長について」と題して指導計画を作成し、学習効果の向上と学力の伸長を目指した。 | 【教育課程・学習指導】<br>・指導体制が機能し、学習到達度をチェックし徹底できたか。 | A [B] C D |
| ・各教科で「科学の視点（根拠に基づいた思考や論理性）と言語活動を重視した授業の構築」をテーマに授業研究と実践を通して、教科指導力の向上を目指した。 | ・職員の共通理解の下、組織的に取り組めたか。 | A [B] C D |
| ・ＰＴＡ向けに学校見学会、中学生向けに学校見学会、「理数科１日入学」 を実施した。 | ・参加者数、参加者からのアンケートによる評価。 | A [B] C D |
| 【生徒指導】<br>・毎月曜日に実施する身だしなみ指導、ネットスマホ安全利用宣言による保護者との連携指導。 | 【生徒指導】<br>・生徒の身だしなみをはじめとして生活規律が整ったか。 | A [B] C D<br>A [B] C D |
| ・予防的・開発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動の支援。 | ・生徒・保護者に対して広く啓発活動ができたか。 | A [B] C D |
| ・生徒連絡会議、ケース会議、特別支援会議等、専門家を交えた研修会を通して情報連携と連携指導。 | ・支援を必要とする生徒に軸足を置いた対応ができたか。 | A [B] C D |
| ・支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援コーディネータや関係機関と連携して校内支援体制の充実を図る。 | ・生徒理解のための情報連携がなされ未然防止・早期対応ができたか。 | A [B] C D |

| 9 | | |
|---|---|---|
| 成果・課題 | 【教育課程・学習指導】<br>○ 各教科、学年会で「やり切ることの徹底と使えるまで高める学習による学力の伸長」について、指導計画を作成して、全校体制で取り組むことができた。<br>○ＰＴＡ向け学校説明会（３校）、夏の中学生向け学校見学会（参加者数1,302名）を実施し、アンケート結果からは本校に対する好印象を得ることができた。６校合同説明会において本校のＰＲを行った。<br>▲授業アンケートを行うことで、生徒の状況を把握するとともに授業改善を目指している。授業目標の明確化、生徒の主体的な授業参加、深い学びへの発問といった項目が4.2～4.3で悪くはないが、次期学習指導要領を踏まえた授業改革（アクティブラーニング等）や生徒が主体的に学ぶような授業改善をさらに進める必要がある。<br>【生徒指導】<br>○未然防止の観点から指導を心掛け、予想される事案に対して事前指導をすることができ、規範意識醸成に効果をあげつつある。<br>○支援の必要な生徒に対して、合理的配慮の提供やカウンセリングなどの教育相談体制が整備されてきた。<br>▲早期支援の必要な生徒に対して、予防的、継続的な対応が必要である。 | 総合評価<br>教務部<br>A [B] C D<br><br>生徒指導部<br>A [B] C D |

| 10　来年度に向けての改善方策案 |
|---|
| 【教育課程・学習指導】<br>・各授業において、「根拠に基づいて思考すること」を徹底することで、主体的な学びにつなげる。<br>・来年度入学生が受験する新しい大学入試に向けて、求められる力や入試形態の分析を行い、授業に反映させられるような取組を目指す。<br>・初期指導を丁寧に行うことで、授業を中心とした学習にスムーズに取り組めるよう指導する。<br>・学力不振者に対し、各教科、学年会で生徒の状況について情報を共有し、ＨＲ担任、教科担任で声掛けをして、生徒一人一人に学習課題をもたせ学力の伸長を図る。<br>【生徒指導】<br>・保護者への情報発信と連携指導<br>・早期支援のための専門家と関係機関を交えた情報共有、連携指導 |

## （２）進路指導、特別活動、部活動、学校行事、健康管理、安全指導

| | |
|---|---|
| 1　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | 【進路指導】<br>・１、２年生の大学や入試についての知識が５月から10月にかけて飛躍的に増えている。（進路希望調査より「志望大学について、知っている」１年生：53.0%→64.8%、２年生：65.5%→83.9%。「志望大学の入試について、知っている」１年生：23.5%→38.6%、２年生：40.7%→56.9%。）<br>・１年生は７月から11月にかけて国数英総合成績を伸ばしており（SS55.1→55.5）特に数学の伸長が顕著である（SS54.1→57.0）。国英も昨年度並みである。２年生は国数英総合成績を下げているが（SS56.3→54.7）、例年の現象の範囲内であり、昨年度生の成績とほぼ同様である。３年生は昨年度生と比較して総合成績（国理、国文）については大差ないが、教科間で差異がある。<br>・家庭学習時間が年度当初より減少している。（平日１年生：５月2.6時間→10月2.4時間　２年生：５月2.1時間→10月1.9時間。休日１年生：５月4.0時間→10月3.7時間、２年生：５月3.4時間→10月2.5時間）<br>【特別活動・部活動・学校行事】<br>・生徒の回答では､生徒会活動に対する評価が良いにもかかわらず、Ｅ(わからない)の割合が高くなっており、取組が十分知られていない。<br>・保護者の回答では、今年もボランティア活動に対するＥの割合が高く、残念な結果にとどまっている。<br>【健康管理・安全指導】<br>・学校での健康・安全への取り組みについて、興味・関心の度合いが高くなっている。<br>・掃除用具の対応。掃除への取り組み方法。 |
| 2　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | 【進路指導】<br>◇キャリア教育を推進し、自己理解の上、自己実現達成への支援をします。<br>◇具体的な進路設計と計画の実行への支援をします。<br>【特別活動・部活動・学校行事】<br>◇生徒が主体となって学校行事の企画・運営にあたります。<br>◇進学校として望ましい部活動のあり方を推進します。<br>【健康管理・安全指導】<br>◇新体力テスト・身体測定・健康診断の重要性を認識させるとともに、事後指導の徹底を図ります。<br>◇清掃と環境保護活動を推進し、美化意識と環境保全意識の高揚を図ります。<br>◇安全点検や命を守る訓練を通して、安全・防災に対する意識を高めるとともに実践力を育成し、事故防止の徹底を図ります。 |
| 3　重点目標を達成するための校内における組織体制 | 【進路指導】<br>・理数・探究部との連携<br>・学年会、教科会との連携<br>【特別活動・部活動・学校行事】<br>・生徒会執行部と、クラス役員によるクラスとの連携<br>・特別活動部と他の分掌、各学年会、各部顧問との連携<br>【健康管理・安全指導】<br>・学校保健安全委員会　学校安全衛生委員会 |

| | ・生徒会生活美化委員会　保健委員会 | |
|---|---|---|
| 4　目標の達成に必要な具体的な取組 | 5　達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| 【進路指導】<br>(1)キャリア教育を目的とした進路行事や土曜講座・補習、特編授業を実施します。<br>(2)進路設計のために適切な時期に外部模試や進路希望調査等を実施します。<br>(3)３年生の進路決定に向けて学年団が共通意識をもって指導するために進路検討会を実施します。<br>【特別活動・部活動・学校行事】<br>(1)生徒が自ら考え行動できる「学校のリーダー」となれるように支援します。<br>(2)生徒が各行事を円滑に実施できるように、計画に準備し運営を行います。<br>(3)生徒は各行事が終了後､速やかに見直しを行い、来年度の改善につなげられるようにします。<br>(4)顧問は、定められた時間内で最大限の効果が上がるように活動を計画します。<br>(5)顧問は担任とともに家庭との連携を密にし､生徒が有意義な高校生活を送れるよう支援します。<br>(6)顧問は担任並びに教科担当者と連絡を取りながら生徒の生活状況を把握し、学習活動にきちんと取り組めるように支援します。<br>【健康管理・安全指導】<br>(1)・各自の能力を最大限に発揮させる指導を徹底し､前年度以上の結果を残します。<br>・整然と受診し、正しい受診結果が得られるようにします。<br>・得られた結果について分析し、その後の自身の健康の保持増進に活かします。<br>(2)・適切な清掃計画により、日常の清掃の徹底を図ります。<br>・委員会活動等を通じて、身近な環境への関心を高めるとともに省エネルギーにつとめます。<br>・私物を各自に与えられたスペースに収納することを徹底します。<br>・安全点検を大掃除時に実施し、施設･設備の整備に努めます。<br>・ワックスがけを工夫します。<br>(3)・命を守る訓練や防災についての意識調査や講話などを防災教育と位置付け、ＬＨＲやＳＨＲ時に実施します。<br>・体育的諸活動時における事故防止には万全を尽くすように適切な指導助言を行います。 | 【進路指導】<br>(1)生徒の様子やアンケートの内容・結果、補習等の参加状況を前年と比較する。<br>(2)校外模試結果の全国偏差値や家庭学習時間の変化等を前年や他校と比較する。<br>(3)生徒の学力と出願校難易度の合致、進路決定先を確認する。<br>【特別活動・部活動・学校行事】<br>(1)生徒自らが、委員会やホームルーム等の活動に主体的に取り組めるか。<br>(2)生徒自らが、各行事の企画から運営までを計画的に行えるか。<br>(3)生徒自らが、よかった点や改善すべき点を見いだせるか。<br>(4)活動時間を厳守し、終了後は速やかに帰宅するできるか。<br>(5)保護者の理解・協力のもとで活動を行い、意見や要望に誠実に対応できるか。<br>(6)部活動と学習活動の両立ができるように指導できるか。<br><br>【健康管理・安全指導】<br>(1)県の集計結果の順位。<br>過去のデータを各自で比較・分析し、向上の度合いや、自分の長所・短所を確認させ今後の目標を設定する。<br>健康診断の受診状況をチェックする。<br><br>(2)日常の清掃活動において清掃が確実に行われているかをチェックする。<br>冷暖房使用時の各クラスの温･湿度や、二酸化炭素の濃度測定状況を確認し、エアコンの正しい使用や暖房時の適正な換気がなされているかをチェックする。<br>教室・廊下の私物の整頓状況で評価する。<br>不具合に対して速やかに対応する。<br><br>(3)災害時の対応や現状の知識・意識をアンケートなどで調査し訓練の参加状況と合わせて評価する。<br>諸行事中に発生が予測される事故についての対応を事前に準備し周知徹底する。 | |
| 6　取組状況・実践内容等 | 7　評価視点 | 8　評価 |
| 【進路指導】<br>・土曜講座、夏季補習、放課後補習を実施。３年生は夏季補習で理科・地歴に加え、英国数を実施した。また、キャリア教育として１年進路研究講座やＯＢ進路講演会、先輩と語る会を実施した。<br>・校外模試を実施し、その対策として過去問題に取り組ませると同時に自己診断シートを書き込ませた。また、英語外部検定試験の積極的な受検を促した。 | 【進路指導】<br>・生徒の補習や学校行事等への取組状況はどうであるか。生徒のアンケート等の内容はどうか。<br><br>・学力の伸長は見られるか。 | A [B] C D<br><br>A [B] C D<br><br>A [B] C D |

| | | |
|---|---|---|
| ・大学入試を早期に意識させるために、大学入試問題研究講座を実施した。 | ・受験生としての意識は高まっているか。 | |
| 【特別活動・部活動・学校行事】 | 【特別活動・部活動・学校行事】 | |
| ・昨年度の反省をもとに、生徒会執行部が早い時期から計画的に取り組み、委員会などを通じて行事を成功させることができた。終了後も直ちに反省を行った。 | ・行事の運営には柔軟に対応し、取り組む中で改善点を明らかにできたか。 | A [B] C D |
| ・ボランティア活動として前後期の２回にわたって校内募金活動を行い、かなりの寄付を行うことができた。 | ・募金活動に関して全校に紹介し、保護者も含めた多くの賛同を得ることができたか。 | A [B] C D |
| ・部活動懇談会を始めて実施し、保護者からの意見を直に聞くことができた。そこで出た意見を職員全体で共有し、改善へのきっかけとなるようにした。 | ・部活動と学習活動の両立に全校体制で取り組むことができたか。 | A [B] C D |
| 【健康管理・安全指導】 | 【健康管理・安全指導】 | |
| ・健康診断に関して、落ち着いて受診できる場所を確保できた。 | ・新体力テスト、健康診断への取り組み姿勢について | A [B] C D |
| ・委員会活動や担当部署の生徒･教員に環境美化担当を配置した。ワックスがけを２日で実施した。 | ・委員会での活動状況の把握、校内巡視での確認。掃除用具点検 | A B [C] D |
| ・安全点検の結果に素早く対応した。 | ・迅速な対応 | [A] B C D |
| ・学校防災への取り組みを行った。 | ・取り組み姿勢 | [A] B C D |

| | | |
|---|---|---|
| 9 成果・課題 | 【進路指導】<br>○土曜講座の受講者数は昨年度同学年と比較して、３年生で138%、２年生が140%、１年生が109%という状況、３年生放課後補習は120%、夏季補習は３年生が96%、２年生が227%、１年生が220%という状況であった。参加生徒の取組の様子も良く、参加者数をさらに伸ばせるよう学年会、教科会と連携を図りたい。<br>○模試結果について、３年生は後半になって英数国を中心に昨年度並みの力をつけ、２年生は国語を筆頭に来年度の期待感がもてる結果であった。１年生も数学を中心に順調なスタートが切れている。今後は得意科目の伸長、苦手科目の克服に力点を置き、さらなる飛躍を目指したい。<br>▲「大学入学共通テスト」（新テスト）に向けての情報収集、具体的な取組を具現化していく必要がある。<br>【特別活動・部活動・学校行事】<br>○生徒会で行事の準備に昨年度後期から取り組み、生徒自身で運営していく体制をつくることができ、岐山祭開会式での岐山高クイズなど、新たな試みも成功させることができた。また、校内募金活動も定着してきた。<br>○部活動懇談会の報告を行い、部活動に対する保護者のさまざまな意見を聞くことができた。また、その報告から明らかになった課題について検討していく方向性ができた。<br>▲部活動に対する保護者からの厳しい意見には、特別活動部だけでなく、全校体制で検討していかなければならない点がある。<br>【健康管理・安全指導】<br>○新体力テスト・健康診断に関しては良好な参加、受診態度であった。<br>▲ワックスがけが1度しか実施できなかった。掃除用具の補給方法を周知徹底することができなかった。<br>○安全点検に関して迅速に対応できた。<br>○工夫・体験型の「命を守る訓練」が好評であった。（地区保健担当者会のH29・30年度研究テーマとなった） | 総合評価<br>進路指導部<br>A [B] C D<br>特別活動部<br>A [B] C D<br>保健厚生部<br>A [B] C D |

10　来年度に向けての改善方策案

【進路指導部】
・土曜講座、放課後補習、夏季補習へのさらなる積極参加を促したい。過去の生徒の例からも、本校の取組に果敢に参加した者に成功者が多い。（難関大学合格者が塾を利用していなかった例などから）
・校外模試の結果分析から、学力上位者への督励、下位層への面談指導・個別指導など強化を図る。担任面談、教科担任面談の重要性を見つめ直す。
・新テスト等の情報収集を行う。（特に、英語外部検定試験について）

【特別活動・部活動・学校行事】
・ホームページや校内での掲示など、広報活動に取り組み、生徒会の活動がより明らかにできるように努める。
・部活動懇談会を引き続き行い、部活動のあり方について検討を進める。
【健康管理・安全指導】
・生徒・職員が一体となって、学習環境の改善や健康活動への意識・行動をさらに高めさせるよう努める。
・防災意識をさらに高め、自ら考え、行動できるよう「命を守る訓練」や啓もう活動を工夫する。

## （３）ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携、図書・情報管理

| | |
|---|---|
| １　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>・ＰＴＡ執行委員会(年間４回)、同窓会常任理事会・理事会(年間各２回)を通じて役員の方々より、様々なご意見をいただいている。<br>・ＰＴＡ役員及び保護者や同窓会役員と学校との関係は良好である。<br>【図書・情報管理】<br>・学校評価アンケートにおいて、学校ウェブページの認知度は、昨年度に続き低い評価になっている。（E:9.8%→10.0%）<br>・一斉配信メールは、評価・認知度とも高い。(評価平均:4.7、,E:0.6%) |
| ２　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>◇家庭と学校との情報伝達を円滑にし、一層の連携を図ります。<br>◇ＰＴＡ役員及び保護者相互のより良い人間関係の構築に努めます。<br>【図書・情報管理】<br>◇探究学習の時間や各教科との連携を進め、蔵書の充実を図ります。<br>◇情報管理の徹底及び学校ウェブページやメール配信を利用した広報活動に努めます。 |
| ３　重点目標を達成するための校内における組織体制 | 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>・渉外・ＰＴＡ担当と同窓会担当に分かれ、渉外・ＰＴＡ運営は２名、同窓運営には７名の本校ＯＢ職員が担当している。<br>【図書・情報管理】<br>・図書館運営委員会<br>・各分掌との連携（学校ウェブページ・一斉配信メール） |

| ４　目標の達成に必要な具体的な取組 | ５　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>(1)家庭と学校との情報伝達を円滑にするために、ＰＴＡ会誌を発行します。<br>(2)ＰＴフォーラムをＰＴＡ役員を中心に企画し、参加した保護者が有意義な時間を過ごすことができるよう工夫します。<br>(3)ＰＴＡ役員と学校職員との協力により、ＰＴＡ総会及びＰＴＡ執行委員会を開催します。<br>(4)県高Ｐ連総会・東海高Ｐ連総会・全国高Ｐ連大会への参加を通じて、役員相互の親睦を深めます。<br>(5)親村バザー（学校祭への保護者の参加）を通じて、保護者相互の 交流を深めます。<br>【図書・情報管理】<br>(1)探究の時間や各教科での利用のための図書を充実させます。<br>(2)情報の適正な管理を図るため、セキュリティポリシーの趣旨を周知徹底し、情報管理のための各種記録簿の適正な使用を推進します。<br>(3)各分掌及び部活動顧問等と連携しながら、発信すべき情報の収集と選定を行い、学校ウェブページのトピックスや部活動の紹介記事等の充実を図ります。 | 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>(1)学校からの情報を伝えるとともに、保護者の活動の様子を紹介することができたか。<br>(2)保護者は満足したか。参加人数は増えたか。<br>(3)学校と保護者相互の意思疎通が図れたか。<br>(4)参加した役員相互の親睦が深まったか。他校の取り組みを本校の活動に生かせたか。<br>(5)参加保護者が、相互に交流を深めることができたか。<br>【図書・情報管理】<br>(1) 理数・探究部や「探究の時間」の担当者・各教科からの要望への対応及び新着図書の紹介が遅滞なく行われているか。<br>(2)各種管理簿は適正に使用されているか。<br>(3)学校ウェブページのトピックスが本校独自の行事や顕著な活動成果をカバーできているか。適切な時期に､部活動の紹介記事が更新されているか。 |

| | | |
|---|---|---|
| (4)メール配信を適切に実施し、教育活動の広報とともに、災害時に於ける生徒の安全確保や安全確認に備えます。 | (4)メール配信が円滑に実施できたか。訓練時の帰宅確認が支障なくできたか。 | |
| 6　取組状況・実践内容等 | 7　評価視点 | 8　評価 |
| 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>・ＰＴＡ総会、ＰＴＡ執行委員会の開催<br>・ＰＴＡ会誌発行<br>・学校祭への保護者の参加（親村バザー）<br>・ＰＴフォーラムの開催<br>・同窓会総会、懇親会の開催<br>【図書・情報管理】<br>・探究の時間の指導計画に基づいて、必要な時期に必要な図書をできる限り準備する。各教科からの要望についても随時対応する。<br>・研修会で情報管理について周知徹底を図り、各種台帳・記録簿の使用を推進する。<br>・学校ウェブページのトピックス・部活動ページ等の更新、及び一斉メールによる緊急時や行事連絡等の情報発信。 | 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>・ＰＴＡ役員との連携<br>・同窓会役員との連携<br>・渉外担当者相互の連携<br>【図書・情報管理】<br>・探究の時間や各教科の要望を取り入れて図書を準備できているか。<br>・セキュリティチェックシートの回答内容、及び記録簿の記録内容。<br>・学校ウェブページの更新が適正か。メールによる情報発信の内容と時期が適当か。 | [A] B C D<br>A [B] C D<br>[A] B C D<br>A [B] C D<br>A [B] C D<br>A B [C] D |
| 9　成果・課題<br>【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>○ＰＴＡ総会は出席者の参加が増加した。150台駐車制限も定着した。ＰＴＡ執行委員会は、概ね円滑に進めることができた。<br>○学校祭での親村バザーは、チケット販売の方法を変更したことにより、スムーズに販売をすることができた。<br>▲ＰＴフォーラムの企画内容について再検討する。<br>【図書・情報管理】<br>○探究活動や理数科課題研究などに向け、探究の時間等に生徒が必要とし利用する図書を、購入あるいは他の図書館との相互貸借制度を利用して準備した。さらに、関連図書を集めたコーナーを設置して生徒が利用しやすい環境をつくることができた。<br>○情報管理については、各種記録簿の適正な使用が実施できた。<br>▲学校ウェブページでは、部活動紹介でいくつかの部が準備中のままになっており、活動実績の更新も進んでいないので、来年度は更新したい。<br>○メール配信については、一斉配信メールが問題なく伝達できた。また、緊急時における生徒の帰宅確認も簡便にできた。 | | 総合評価<br>渉外部<br>A [B] C D<br>図書部<br>A [B] C D |
| 10　来年度に向けての改善方策案 | | |
| 【ＰＴＡ・同窓会・保護者との連携】<br>・ＰＴフォーラムの講演の継続について、学年会、分掌会等で検討する機会をもつ。新たな企画を導入する場合は、広くアイデアを募る。<br>・ＰＴＡ会誌岐山の内容と発行回数について検討する。<br>【図書・情報管理】<br>・学校ウェブページ上の更新すべき項目（特に部活動）や、学校行事等でウェブページ紹介にふさわしいものについて、来年度さらに各担当者や分掌に記事提供を呼びかけ、更新していきたい。 | | |

## （4）理数・探究、探究型教育

| | |
|---|---|
| 1　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | 保護者や生徒対象アンケートで「外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習の機会が多い」の質問では、平均が保護者4.2、生徒4.4と良好な評価が得られている一方で、生徒対象アンケートの「「探究の時間」が有意義である」という質問については平均3.9であり、取組の目的や活動を通して身に付く力についての理解を深めさせたい。 |
| 2　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇科学的な視点で問題を発見し解決していける力を培い、他者と協働し粘り強く取り組む姿勢を養います。<br>◇外部機関と連携した教育活動を行い、キャリア教育や理数教育を推進します。 |
| 3　重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・理数・探究部<br>・学年主任、探究活動学年代表を含む理数・探究部会 |

| 4　目標の達成に必要な具体的な取組 | 5　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| (1) 「探究の時間」などを活用した探究的な活動を企画・運営し、主体的・協働的な取組で課題解決を目指し、結果をまとめ発表することで、論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。 | (1)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度末に評価テストを実施します。 |
| (2) 理数科対象の野外実習(フィールドワーク)、課題研究、論文作成や発表を通して、実験・観察技能や科学的思考力、プレゼンテーション能力を養います。 | (2)取組ごとに自己評価、担当者による到達度評価、年度当初と年度末に評価テストと保護者アンケートを実施します。 |
| (3) 課外の時間を活用した研究者との対談や、希望者を対象とした特別講座を企画･実施し、その結果をレポートにまとめることで、論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。 | (3)取組ごとに参加者アンケートや自己評価を実施します。 |
| (4) 全校生徒を対象に、先端研究者の講演会や座談会、企業や研究機関への訪問、参加体験型研修を企画･実施します。 | (4)参加者アンケート、自己評価、講師による評価を受けます。 |
| (5) 外部の機関と連携して視野や価値観を広げ、自己の将来や社会との関わりを考える取組を実施します。 | (5)参加者アンケート、自己評価、担当者による到達度評価を行います。 |
| (6) 自然科学系部活動を中心に、大学や企業の研究者と連携した研究活動、岐阜市と連携した中学生対象の講座など、理数教育の拠点校としての役割を果たします。 | (6)研究成果をまとめ、各種コンクールや全国規模の大会へ積極的に参加し、外部評価を受けます。 |

| 6　取組状況・実践内容等 | 7　評価視点 | 8　評価 |
|---|---|---|
| ・「探究の時間」に外部講師を招聘し、論理的思考力や表現力、質問力等を養う講座を実施した。 | ・自己評価の満足度（5段階評価）<br>野鳥講座4.78、助産師講座5.00 | A [B] C D |
| ・理数科１年野外実習、２年校外研修、３年課題研究及び課題研究発表会を実施した。 | 新聞講座4.04、TV講座4.61 | A [B] C D |
| ・講演会、座談会、企業訪問、研究室訪問、トビタテ留学JAPAN説明会等を企画・実施した。 | 先端科学講座4.48、<br>校外研修4.21、工場見学4.91、 | A [B] C D |
| ・岐阜市と連携し岐阜科学塾を実施した。岐阜県児童生徒科学作品展に研究成果を出展した。 | ・岐阜科学塾　参加中学生16名、<br>科学作品展　優秀賞１名､入賞８名<br>数学オリンピック予選通過１名 | A B [C] D |

| 9 成果・課題 | 総合評価 |
|---|---|
| ○生徒の多様な興味・関心を高めることができるよう多方面の講師を招いた講座を実施することができ、参加生徒の満足度も高かった。また、今年度は継続して共同研究に取り組む講座もできた。<br>○今年度、質問力を育成する講座の企画や職員研修会を増やすなど、これまでの課題に対する取組を実施することができた。<br>▲テーマ設定が主体的にできない生徒も多く、やや与えられた活動となっている面も見受けられる。<br>▲それぞれの活動にはきちんと取り組めているが、各取組どうしのつながりや１年間あるいは３年間の全体像がイメージしにくく、単発となっている。 | A [B] C D |

10　来年度に向けての改善方策案

・問題発見力を育成する内容をさらに企画するとともに、テーマ設定の手順やテーマ決めにかける時間などを改善し、より主体的に探究活動や希望者対象の活動に取り組めるようにする。
・目指す生徒の姿をもとに「探究活動」の３年間を再構築する。各ユニットで付けたい力を明確にし、そこで培った力の積み重ねが「探究活動」や「課題研究」に収束していく構造を明確化する。また、それらの構造を職員や生徒へ共通理解を図り、活動の目的や目指す姿を意識しながら全校体制で取り組めるようにする。

## （５）１年学年会、２年学年会、３年学年会

| 1　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | 【１年】<br>・学校生活を有意義に送っている。<br>・基本的な生活習慣を身につける期間で戸惑うことがある。<br>・授業の水準や宿題の質、量に慣れるとともに、課外活動にも積極的に参加できるようになった。<br>・学校から家庭への連絡はＨＰやメールが有効である。<br>・家庭から提出される書類等の滞りがある。 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| | 【２年】<br>・「授業に対するアンケート」からは、生徒の授業に対する評価はおおむね高く、信頼されていると分析できる。<br>・模試の結果から、生徒たちが着実に力をつけていることが伺われるが、上位と下位との差が広がりつつあり、土曜講座の積極的な活用を通じて、主体的に取り組む姿勢を育成していくことが必要である。<br>【３年】<br>・授業に対するアンケートより、概ね授業に対する意欲、集中力はあり、意識は高く、自ら発展・応用的な学習の数値も高い。<br>・課題提出に意識が低い傾向がある。 |
| ２　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | 【１年】<br>◇主体的に取り組む姿勢を育て、自律的に行動できる人を育成します。<br>◇集団に所属している実感を高め、自己に自信を持たせます。<br>【２年】<br>◇基本的生活習慣を質的に向上させ、誠実に物事に取り組む心を育てます。<br>◇自ら考え、行動できる主体性を育てます。<br>【３年】<br>◇生命を尊重する心の育み、人権尊重の意識を醸成します。<br>◇進路目標の実現と共に、社会へ貢献できる人材の育成に努めます。 |
| ３　重点目標を達成するための校内における組織体制 | 【各学年共通】<br>・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携<br>・他学年、保護者との共通理解 |

| ４　目標の達成に必要な具体的な取組 | ５　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| 【１年】<br>(1)課題・宿題を単にこなすのではなく、粘り強く考え、質問し探究する習慣を育てます。<br>(2)文理選択にあたり、将来の職業と関連付けたキャリア教育を早期から実施し、教育相談や際者懇談を通じて、前向きかつ適切な文理選択ができるようにします。<br>(3)基本的生活習慣を身につけさせる中で、進路目標の実現にはお互いの思いやり、自律心が大切であることを理解させます。<br>(4)文化祭や球技大会等、一所懸命取り組むことにより、仲間の大切さや尊さを知るとともに、達成感や成就感を持たせます。<br>(5)ＨＲ活動や係活動や清掃、ボランティア、委員会活動を通じ、公共性や協調性を養います。<br>(6)学年行事の中で、生徒が主体的に企画・立案・運営を行う機会を設けて、実施する中で生徒に自信を持たせます。<br>【２年】<br>(1)集会やＬＨＲの活動や身だしなみ、学習に向かう姿勢について指導を行い、生徒指導部とも連携し、生徒の規範意識を高め、生活習慣の質的向上を目指します。<br>(2)課題・宿題に対して粘り強く考え、分からないところは、自ら調べたり質問したりして、「誠実に探究する習慣」を育てます。<br>(3)係や清掃、ボランティア、委員会活動、学年行事等を通じ、公共性や協調性、物事に誠実に取り組む心を養います。<br>(4)行事に取り組む中で､個々の存在を尊重しつつ、仲間を思いやる心を養います。<br>(5)大学情報、学部・学科情報の収集に努めさせ、 | 【１年】<br>(1) やりきる指導を通じ、提出物状況及びテストや模試への取り組みと結果から達成度を判断する。<br>(2)生徒の進路希望を正しく理解し、キャリア教育的な視点も踏まえて文理選択を決定させることができたかで判断します。<br>(3)普段の生活の中で生徒とコミュニケーションをとり、言動から判断します。<br>(4)各行事後のアンケートや生徒との懇談により達成感と成就感を判断します。<br>(5)ＨＲ活動や委員会、係活動を通じて、協調する姿勢や公共心が向上したか判断します。<br>(6)生徒が主体的に企画･立案･運営を行うことができ､行事を通じて自分に自信を持つことができたかをアンケートや生徒との懇談で判断します。<br>【２年】<br>(1)状況を観察し、定期的な調査も行いつつ、必要な指導を行い、状況の変化を踏まえて判断・評価します。<br>(2)やりきる指導の中で、提出物の状況や学習・探究活動への取り組みを評価します。<br>(3)行事に対して誠実な心や思いやりの心を持って取り組めているかを評価します。<br>(4)生徒との懇談やアンケート調査により、達成感と成就感を判断します。<br>(5)進路情報を生徒に与えつつ、懇談を通じて情報 |

| | | |
|---|---|---|
| 各自が自分に適切な大学を考察します。<br>(6)行事の中で､生徒に企画・立案・運営を行わせ、自主的に行動できる生徒を養います。<br><br>【３年】<br>(1)日頃から生徒への声掛けを意識し多くの生徒とコミュニケーションをとり、また教育相談週間の二者懇談会を通して、生徒との信頼・呼応の関係を構築し、生徒の悩みや不安の早期発見に心掛け基本的生活習慣を身に付けます。<br>(2)職員全体でいじめは絶対に許さないという強い姿勢を貫き、生徒に対して公正かつ公平な態度を示し、風通しの良い、個を尊重する心を育成します。<br>(3)人権教育週間等を利用し、グローバルな視野で物事をとらえる姿勢を養い、人権意識を高揚させます。<br>(4) 校外模試や朝テスト、課題実力テスト等、学力向上に向けた取り組みのより一層の充実を図り、生徒個々の能力・適性を的確に分析・把握し、生徒の進路実現に繋げます。<br>(5)生徒の思考力・判断力・表現力の育成のため、生徒が主体的に参加する学年行事、探究活動等の充実に努めます。 | 交換し､進路目標と取り組みが適切か判断します。<br>(6)それぞれの活動や行事に対して、生徒が自ら考え工夫する方向で活動させ、実践状況を評価します。<br>【３年】<br>(1)授業規律の確立、場に応じた挨拶、端整な身だしなみを校内、保護者、関係機関の連携により、身に付けているか判断します。<br><br>(2)校内、保護者、関係機関との連携により、生徒の援助が適切に行われたか。迷惑調査アンケート結果(２回)より、満足感が得られているか判断します。<br>(3)探究活動などを通して、自分の考えを適切に論述、発表、討論するなどの能力を身に付けることができているか判断します。<br>(4)生徒個人が幅広い視野のもとに進路設計ができ、能力が伸長し、自らが納得いく進路実現ができたか判断します。<br><br>(5)探究活動等を通して、進路志望理由等、自分の考えを適切に論述、発表するなどコミュニケーション能力を身に付けることができているか判断します。 | |
| 6　取組状況・実践内容等 | 7　評価視点 | 8　評価 |
| 【１年】<br>・定期的に学年統一の学習時間調べを実施し、課題テストや進研模試の結果の相関性を理解し、学習の大切さを考えさせる。<br>・学年の共通理解のもと、身だしなみ検査を実施し、指導する。<br>・学年集会や探究の時間、ＨＲ活動の時間、担任との面談等を通して、学習や学校行事、授業、部活動のあり方、目的、意義を考えさせ、自分のあり方を考えさせ、取り組みを改善させる。<br>・生徒の状況を踏まえて対応し、充実した高校生活になるよう学年団でサポートする。<br>【２年】<br>・定期的に学習時間調べを実施し、他のデータとの相関を踏まえて考えさせる。<br>・学年の共通理解のもと、担任・副担任による身だしなみ検査を実施し、指導する。<br>・学年集会や探究、ＨＲ活動の時間、担任との面談等を通して、学校生活の意義や自分のあり方を考えさせ、取り組みを改善させる。<br>・生徒の状況を踏まえて対応し、充実した高校生活になるよう学年団でサポートする。<br><br>【３年】<br>・普段の声掛け等を通して、主体的に学校行事を進め、懇談から多くの情報を得ることで、教師との生徒の距離が近く、風通しの良い関係を構築する。 | 【１年】<br>・毎日の学習時間を、学年全員で継続的に記録し、各種テストによる学習到達度との関連を通して、学業指導の成果を分析する。<br>・探究の時間やリサーチツアー等への参加希望状況によって、積極性を評価する。<br>・各種行事後のアンケートによって、個別行事の充実度と、その行事の啓発度を検証する。<br><br>【２年】<br>・各種データを用いて動機付けした結果、学習意識が強まった。<br>・全体としてかなり規律ある雰囲気ができた。<br>・全体に状況が改善されてきている。生徒の精神的な成長を感じることが増えた。<br>・学年団で連携して、早めの対応ができた。今後も悩みを抱える生徒の存在に留意し、連携した対応を心掛けたい。<br>【３年】<br>・挨拶、学校行事の取り組み、HR活動において、積極的に行動をとることができる。 | A B C D<br>A B C D<br>A B C D<br><br>A B C D<br>A B C D<br>A B C D<br>A B C D<br><br>A B C D |

| | | |
|---|---|---|
| ・スタディーサポート、模試の結果・分析を生徒に紹介し、進路への関心を高め、意識を持たせる指導。<br>・探究活動を通して、自己の進路に向き合い、主体的に活動する場を設ける。 | ・その場での関心・意識に終わり、継続的な学習に繋がらない生徒がいる。<br>・自己の進路への関心が深まり、主体的に行動する生徒が増加した。 | A B C D<br><br>A B C D |

| | | |
|---|---|---|
| 9<br>成果・課題 | 【１年】<br>○継続的に学習時間を調査していることで、テストや連休などによる生活の変化を学習の観点から、一人ひとり把握することができ、個に応じた指導の有効な根拠となった。<br>○モバイル機器の使用マナーを向上させ、自律的に使用することで有効な情報機器として利用できる啓発ができた。<br>▲学習の偏りなどをなくし、全体の水準を向上させるとともに、個々の課題を意識して自発的な学習ができるような学業指導を行う。<br>【２年】<br>○担任の先生が細やかな声かけや保護者への連絡を持続している結果、生徒・保護者との信頼関係が構築されてきている。<br>○生徒の個性を踏まえつつ、思いやりと規律を意識した学年団の指導と生徒の精神的な成長により、生徒の規律を守ろうとする意識が高まり、学力向上にむけた学習態度が前向きにとれる生徒が増加した。<br>▲自主的に物事に取り組む姿勢については、個人差がまだ大きい。差を縮めるために、下位層への働きかけを今後も継続的に行っていきたい。また、生徒の人間関係に対して、今後も状況に応じた指導を継続していくことが必要である。<br>【３年】<br>○学年全体に他者を思いやる心、感謝の心が醸成し、挨拶や学校行事、クラス活動への取り組み等、素直な心で行動でき、人権意識が高まっている。<br>○担任からのアドバイスに耳を傾け、主体的に将来へ繋がる大学を模索し、情報収集し、また自ら相談する姿が見られた。<br>▲受験に対する意識が高まり、学習時間も増加したが、模試の結果に満足できない生徒がいる。 | 総合評価<br>１年学年会<br>A B C D<br><br><br><br><br><br>２年学年会<br>A B C D<br><br><br><br><br><br><br>３年学年会<br>A B C D |

10　来年度に向けての改善方策案

【１年】
・慣れによる学校生活に関わる余裕を、学習や課外活動において「自ら課題を見つけ、解決に取り組む」ために生かせるよう指導する。

【２年】
・岐山高生としてのレベルの達成を目指す。教師が生徒とコミュニケーションを密にとることで信頼関係を深めつつ、家庭とも連携し、生徒をより大きく育成する。
・生徒の進路目標の具体化、明確化及び受験生としての意識の向上に心掛けつつ、同時にクラスの絆、友情を構築し、学年・学校への帰属意識と進路意識を高め、学習意欲と行動力の向上を目指す。

【３年】
・最後までやりきる指導の徹底から、粘り強い生徒を育てる。
・探究活動の充実を図り、主体的に考え、行動する生徒を育てる。
・クラス活動や学校行事の在り方から、協働し合い、生徒のコミュニケーション能力を養い、協調性や最後までやりきる指導の徹底から、粘り強い生徒を育てる。

## Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成３０年２月９日

【意見・要望・評価等】

（1）テーマ　　「探究の時間」授業参観について
　　探究的な学習について

意見１　普通に使っている食材の玉ねぎの発表では、糖度が中心部に多いということも分かった。糖度と形だけではなく、他のことへも広がり、これからも継続できる研究になるとよい。虐待の発表については出産経験もなかったり結婚もしていなかったりすることから、アンケートや話だけの資料なので仕方ない部分もあるが、夫婦間だけでなく、お母さん方のコミュニケーションなど、周りの人も巻き込んだ資料作りもやっていけるとまた面白いものになると思う。経験不足もあるがもう少し視点を広げた考察ができるとよい。

意見２　答えのないことに取り組むことに意義がある。探究は発表で終わるのではなく、今後も続くことである。大人の厳しいコメントが探究の原動力になる。大人の壁があることによってさらに深まることになるとよい。

意見３　昔はこういう探究活動はなかったが、あえてこういうことに取り組むことが岐山高校らしくてよい。１年生の発表の様子を見るとよい子が多いことがわかった。

意見４　楽しい発表であった。玉ねぎのように、考察をして仮説を立てて結論が見えてくるような発表と、介護と看護、児童虐待のように答えが見えない発表があるが、大人になって、経験することによって見解が変わり、先にもつながることがある。面白いと思って聞いていた。

意見５　楽しく聞けた。一生懸命やっていた。理数科は普通科より時間をかけているのか。
（学校側）理数科の科学トレーニングと普通科の探究活動で比較すれば、科学トレーニングの方が短い期間でやっている。

意見６　テーマが絞られていたからかもしれないが、１年生ながらしっかりと発表できていた気がした。育児放棄や看護については、取り組みの主旨として、自分の疑問に思ったこと、興味を持ったことを調べて発表していくということはわかったが、「焦点が身近なところに引き寄せすぎたのかなぁ」という感じがした。頑張ってやっているという印象を持った。今回は健康医療というテーマから２つ聞かせてもらったが、次回は分野の違う発表が聞きたい。

意見７　今年で３回目、探究活動についても３パターン見させていただいた。昨年と違いじっくりと聞けた。ただ、一方で昨年は、自分の興味があることが聞け、それも楽しかった。探究活動が授業で行えるのは貴重なことだ。これらの手法は、就職してからも役立つことであると思った。とても楽しかった。

意見８　探究の時間で発表が終わったら終わりではなく、一度興味を持ったことなので何かの機会にふれ、次につなげてほしいと思った。

意見９　今年初めて見させていただいて、３つの発表を見たが、似たようなものではなく、変わったジャンルのものも見たかった。

（2）テーマ　　学校運営及び教育活動について
　　岐山高校・生徒に期待することについて

意見１　ＰＴＡの会議で、体育の服が乾かないので変更してほしいという意見が出ていた。防寒の観点からも女子の黒タイツを検討してもらいたい。
（学校側）体操服は変更の方向で検討している。黒タイツについても、変更についての原案を作成して、許可する方向で進んでいる。ＰＴＡの方にも原案に対してご意見をいただきたい。

意見２　今年度、カウンセラーの来校の機会を増やしたと説明を受けたが、カウンセリングを利用している生徒は実際どれくらいいるのか。
（学校側）年９回は県からの指定で来校している。必要に応じてこれ以外にもカウンセラーに来

校いただきき、２０名位はカウンセリングを受けている。継続的に受ける場合もあるし、そうでない場合もある。昨年度は希望者がないこともあったが、今年度は回数を増やして重点的に活用している。

意見３　カウンセリングは、なかなか自分から受けたいとは言わないと思うが、担任が勧めるのか。

（学校側）担任からの提案や、保護者からの要請による場合もある。

（意見）　不登校などの生徒がカウンセリングを受けるのか。人数はどれくらいか。学年はどうか。やはり１年生が多いか。

（学校側）人間関係がうまくいかないといったような生徒で、３０日以上の欠席者は十数名、２０日以上の欠席者だと２１～２２名である。悩みは違うが、最近増える傾向である。学年は１年生と３年生が多い。

意見４　全般的に先生お一人お一人がやりきる指導、高める指導をするために献身的に活動され、組織として教員が一丸となっている。また、生徒もそれに応えて努力している。それが一つ一つの項目から伝わってくる。本当に頭の下がる思いである。探究について、ＳＳＨの経験から積み上げてきたものがあるということでそれは財産ではあるが、教員の入れ替えも多くあったことだと思うので、今提案のあるように、もう一度再構築するのにはよい時期であるのではないかと思う。形式的になってしまうことが多いので、生徒の意見を聞いたり、文系の先生の意見を聞いたりすることもとよいと思う。生徒が主体となり、子供たちが疑問をとどめられるような方策や仕組みが日常的にあるとよい。